

響き

荘原コミュニティセンター報

令和3年10月31日現在

世帯数	2,639戸
男性	3,609人
女性	3,848人
合計	7,457人

発行／荘原コミュニティセンター
出雲市別荘3835 (電話)72-4600 (FAX)72-4602

おかげさまで
No.200
2021.12.20

つなげる 荘原 笑顔の未来
活かそう 人を 歴史を 資源を

200号を記念して

たくさんの思い出をありがとう

公民館からコミュニティセンターへ、 ～時代をふり返って～

田中 文子



公民館主事時代の
田中さん

今回公民館の思い出を書くにあたり「響き」を一読し30年前の様子が懐かしく思い出され、それと同時にたくさんの出会いとお世話になった人たちの顔が浮かんできました。そして、私はこの方々に育てて頂きました。今でも町の中で会うと「あの頃は楽しかったね」と言われると私もうれしくなります。平成10年開館20周年を迎え館報の名称を一新するため募集したところ、(故)江角米子さんの「公民館に集う人々が心を響き合わせる」という気持ちを込めた「響き」に決まりました。題字は上庄原の河津ミツ子さんの書です。編集は池淵茂さんをお願いしました。時代の流れが一目でわかる館報。いつまでも続いてほしいですね。

書記として昭和62年から勤め始めたころは、非常勤で、現在のコミセンとは違いあまり用事がない所でした。しかし、社会の変化と共に、開館日も増え事業も多くなると、自然に人の出入りも多くなり、地域の人たちとも親しくなってゆきました。世間話をしお茶を飲みながら、いろいろなアイデアが生まれ、人材の確保にもつながり何かと行事に協力をお願いしました。私が主事になったのは平成7年で、主事が常勤になったのは平成12年です。

地域の拠点となる公民館は、人生80年時代を迎え地域住民の学習の場、仲間づくりの場、憩いの場としてクラブ・教室の活動も活発になってきました。中でも平成6年女性部「やまものの会」が結成されたことは、公民館にとって大きな力となりました。「女性の地位向上と自主的で連帯性のある社会参加活動」を目的に何事にもいち早く取り組みました。現在もCOP26で議論されていますが、当時も温暖化による環境問題が騒がれると、空き缶、ペットボトルのリサイクル、マイバッグ運動を行動に移し地域の皆さんの意識を高めるきっかけとなりました。今では、マイバッグ持参は当たり前となりましたね。また、地区民体育大会での700食のカレーづくり、文化祭のバザー、小学生100人と「いりすの丘」泊キャンプ……等々、女性の力を大いに発揮し生き生きと輝いていました。今でも一泊キャンプでの祈りを込めたキャンドルの淡い光は目に焼き付いています。参加者全員が一つとなり喜びは感無量でした。そして、公民館は子どもから高齢者まで様々な事業に対応してきました。一部を取り上げてみます。○こどもの事業…居場所づくり、体験学習 ○高齢者事業…平成12年デイサービス「おいでませの会」発足 ○青少年健全育成協議会…子どもの安全を守る会、青バト隊の結成 ○人権・同和教育 ○健康づくりの会…健康体操、羽根盆踊り、カローリング 等々。

社会のニーズに応えた事業を展開してきましたが、地域の人たちのご支援とご協力がなければ何一つできなかったと思います。そして、神門弘明館長、竹田勲館長さんの大きな理解のもと、お世話になった沢山の方々に心より感謝しています。私にとって人生の財産となりました。平成22年岡初枝さんにバトンタッチしました。

創刊当時は小学校に公民館が併設されていました。



創刊号



102号より
愛称が「響き」
になりました。



たくさんの思い出をありがとう

荘原コミュニティセンター“響き”

岡 初枝

斐川町が出雲市と合併し、『荘原公民館報』から『荘原コミュニティセンター報』に変わりました。組織が変わり大変戸惑いがありました。

その中で、荘原コミュニティセンターでは地域の人とのコミュニケーションを最も大切にしてきました。いろいろな世代との交流を大事にすること、アンテナを張る事、対話をする事を日々努力してきました。

主に“響き”にはその時の事業や地域の交流の様子、参加された方の感想等を掲載しています。今振り返るとその当時に鮮明に浮かんできます。当時の子どもたちの成長を見ることができました。成長した子どもたちから挨拶をしてくれた時は大きな喜びです。今を大切にしつつ昔のことを伝え、地域で共有できる広報誌にしていきたいという願いを込めていました。

センター報をいかに読みやすく記事を書くのか、写真の写し方や見出しの文字でインパクトが違うということを出雲中央新報社の河野徹夫氏に講習していただき勉強しました。また、ずっと校正をしていただいている須田 璋氏のご存在がとてもありがたいことです。世に出す文章なので素人の私達にはわからない文章の書き方等全体を的確に指導していただき、より親しまれるセンター報になっていると思います。

地域の方の寄稿や専門部の活動等たくさんの方の協力のもとコミュニティセンター報が作られています。センター報に関わっていたことで地域の今昔、その時の人々とより親しみがわいてきました。これからも時代に対応しつつ変化した地域の広報誌としての“荘原コミュニティセンター響き”に期待しています。



公民館から
コミュニティセンターへ



152号より
カラーになりました。



10/5
(火)

いも掘り

こども倶楽部

大きいのが
とれたー!!

荘原幼稚園・荘原保育園・東部保育園の3園と一緒に育てたさつまいも。10月5日に楽しみにしていた収穫の日を迎えました。今年は豊作&上出来! 蜜がたっぷり、甘くて美味しいさつまいもが沢山出来ました!

園児達も張り切ってさつまいもを掘って、「とれたー!」と満面の笑みで報告してくれます。大人たちは、畑作りに始まり、暑い日の水やりや、草取り、ここに至るまでの大変さが報われる思いでした。収穫したさつまいもは文化祭で焼き芋として販売しました。皆さん口々に「美味しい!」とってくださいました。



12/2
(木)

ぶどうのつるを使って クリスマスリースを作ろう!!

ふれあい交流部

コロナ禍でクリスマスを家で過ごすことも多いと思います。

「ふれあい交流部」では、毎年この時期にクリスマスの飾りを作る企画を立てて、ご好評いただいています。(昨年度は、コロナの感染防止のために中止)

今年度は、「ぶどうのつるを使ってクリスマスリースを作ろう!!」と参加を呼びかけ、15名の参加がありました。

参加のみなさんは、野山にある松ぼっくりやどんぐりなどの自然素材を用いた世界に一つだけのクリスマスリース作りにグルーガンやボンドを手にイメージを膨らませながら熱心に取り組まれていました。



荘原地区文化祭

11/13 (土) 11/14 (日)

荘原地区文化祭実行委員会

文化祭のお礼

文化祭実行委員長 渡部 誠治

今年度の文化祭も昨年度と同様コロナの影響により、講演会・演奏会及びコンサートは、三密回避のため取りやめ、規模を縮小した飲食無しの展示を中心とした文化祭としました。

また、衆議院議員総選挙の実施により文化祭の日程を変更せざるを得なかったため、多くの皆様方にご迷惑をおかけしたことを心よりお詫言申し上げます。

教室、サークルの皆さん、コミセンの各専門部の皆さん、自治協会の理事の皆さんには数日前から、掃除、物品の移動などの会場準備や、展示、そして当日の運営にご協力いただきました。また、受付での来場者の方々の健康チェック・三密回避のための一方通行の実施などのコロナ対策を徹底していただき、素晴らしい文化祭にさせていただきました。厚くお礼申し上げます。

今年も規模を縮小した展示を中心とした文化祭でしたが、小学生や保育園児の子どもさん連れの若いお父さんお母さんの家族にたくさん来ていただき、和やかな落ち着いた雰囲気文化祭となりました。

今年は二日間昨年より200名も多い約900名もの皆様にご来場いただき文化祭を盛り上げていただきました。ありがとうございました。

来年度も素晴らしい文化祭になりますよう、今後も皆様のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



渾身のリレー講座に想う

第1回 11月20日(土) 講師 大矢幸雄さん
第2回 11月27日(土) 講師 平石 充さん

リレー講座「私たちの荘原」のルーツをたどる」は荘原コミセンが提供する渾身の企画です。私たちが日々暮らす荘原地区は、どんな歴史をたどり現在にいたるのか、そして古図や古書においてどのように描かれてきたのか……講義に講義をお願いし、地誌をひもときます。聴講を申し込んでいただいた方は全部で46名、全身を耳にして熱心に講座に臨んでおられます。第1回「斐伊川東流の新たな見方」、第2回「出雲国風土記」からみた古代の斐伊川と2回の講座を終了したところで(11月末現在)。

西へ行ったかと思うと東へ向かう、分かれたり合わさったりを繰り返す斐伊川を、松江開府の大事業を遂げた堀尾氏は制御しようと努めました。東流を確定させ土地を広げ農地の大開発時代が到来しています。堀尾氏の努力がなければ今の斐伊川平野はなかったことですが、数百年前のことでも、いまだに多くの謎が残されています。

そうした地誌を研究するうえで参考となるのが地図です。測量に基づく地図ができてからまだ1世紀半。それ以前は絵図が地域の位置関係を記すものでした。縮尺も方角も高低も、感覚的なもので正確性には欠けますが、

古代から近世の人たちにとっては、地理関係を考察する上で重要なものでした。今はそれが歴史資料として役に立っています。

古代の出雲国の地誌を描いてきた「出雲国風土記」は、神話を交えて出雲の歴史を伝えます。文書が中心とはいえ、当時の地理を中央政府に届ける報告書としての意味合いが「出雲国風土記」にはあったのです。風土記が残る国はわずかしかなかったですが、出雲国の分が散逸せずに残された……誇らしいことではありませんか。

かつて荘原は、ほとんどが中海の一部となる海のなかにあったのでしょうか。古代の人々が暮らし生活を紡いだひとかけらが風土記には描かれています。健部(たけるべ)の里にはどんな人々が住み、誰が国を治めていたのか。謎はいまだに解明されていません。

ルーツをたどるとは歴史を学ぶこと。そして足りない分は想像をたくましくする……我が祖先に繋がる人々の生活や心情に思いをはせることによって、今の私たち自身が豊穣になっていくような気がするのです。それが歴史を学ぶ真骨頂と言えます。



まちづくり部

12/5 (日)

こどもクッキング教室 久しぶりの開催です。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で1年間休止。飲食を伴う活動なので、今年度も実施日と人数に配慮しての開催です。6月と8月にも実施予定でしたが、2回とも感染者数の増加を受けて中止としたため、今年度初めてであるとともに久々の開催となりました。

今回は6名の参加希望があり、JAしまね斐伊川地区本部「ふあみーゆ」の会場で、3つのグループに分かれて「ミートローフ」と「ポテトのツリーサラダ」作りに挑戦です。出来上がった料理は、クリスマスのイメージで、楽しく盛り付けました。個性豊かなクリスマスプレートは、目でも舌でも味わえるごちそうです。一人の分量がちょっと多かったかなと思いましたが、子どもたちはべろりと食べていました。

子どもたちの感想

- お腹痛い食べ過ぎたし、作るの楽しかったのでもよかったです。
- おねだりのみじん切りのやり方が違ったので、そのやり方でもやってみたいです。ツリーポテトサラダがおいしかったから、お家でも作ってみたいです。

放課後こども教室



「響き」200号発行記念抽選会について

荘原コミュニティセンター広報誌「響き」は、皆様にご愛読いただき今年で200号を迎えることができました。ありがとうございます。この度、200号の発行を記念するとともに、ご愛読に感謝し、応募して頂いた皆様から抽選で20名様に賞品を差し上げます。當選者へご連絡させていただきます。

※応募は、荘原地区にお住まいの方のみといたします。
▶「響き」に添付の応募券に必要事項をご記入の上、荘原コミュニティセンターの応募箱にご投函ください。
▶応募締め切りは、令和4年1月21日(金)17:00です。(厳守)
▶当選者の発表は、当選者への電話でのお知らせをもって代えさせていただきます。
なお、当選者への賞品の受渡は荘原コミュニティセンターで行います。
※切り取ってご使用ください。

ふれあいサロン「おいでませの会」

○人権・同和教育研修

9/14
(火)
1班

9/16
(木)
2班

9/17
(金)
3班



出雲市人権同和政策課の園山哲男指導員にきていただき、人権・同和教育研修を行いました。DVD「桃香の自由帳」を視聴後、温かい共生社会の実現のために互いに支え合う、温かい人間関係づくり、地域づくりをしていくことが大切だとお話していただきました。そのために「おいでませの会」のようなサロン活動は重要な役割を担っていると言っていたいただき、大変嬉しく思ったのと同時に今後も長く続けていきたいと思いました。

○幼稚園・保育園園児さんとの交流

2年ぶりの交流は、コロナ禍で肩もみや1対1でのじゃんけんなど密接なふれあいはできませんでした。制約のあるなかでの交流でしたが、聖火入場、よさこい踊り、季節の歌、みんなでじゃんけん、竹太鼓、竹馬など各国とも工夫していただきました。園児のみなさんとの交流を終えて「おいでませの会」の会員・ボランティアのみなさんから「元気をもらったわ」との声をいただきました。

10/12
(火)
1班
荏原幼稚園

10/21
(木)
2班
東部保育園

10/22
(金)
3班
荏原保育園



○フレイル予防講座



11/9
(火)
1班

11/18
(木)
2班

11/26
(金)
3班

「株式会社さんびる」の健康運動指導士の方にきていただき「フレイル予防講座」を行いました。

最近よく耳にする「フレイル」とは、体や心が弱っていて、地域との関わりが減っている状態のことで、フレイル状態にならないためには、

- ①しっかり食べる(特にたんぱく質を十分に)
- ②たくさん出かける(買い物、ウォーキングなど)
- ③人と交流する(笑う)ことが大切であると学びました。

後半には、握力測定と5メートルを何秒で歩くかを測定し、その結果と簡単な質問に答えてフレイルチェックを行いました。参加者からは、「自分の今の状態を知ることができて良かった」との感想がありました。

「響き」200号記念・応募券

住所：荏原・学頭・神庭・三格・上庄原（ ）番地
(〇印でお答えください。)

お名前

TEL

できれば連絡の取りやすい携帯電話をお願いします。

※詳しくは裏面をご覧ください。

応募方法等

- ▶応募は、荏原地区にお住まいの方のみといたします。
- ▶「響き」に添付の応募券に必要事項をご記入の上、荏原コミュニティセンターの応募箱にご投函願います。
- ▶応募締め切りは、令和4年1月21日(金)17:00です。(厳守)
- ▶当選者の発表は、当選者への電話でのお知らせをもって代えさせていただきます。
- ▶なお、当選者への賞品の受渡は荏原コミュニティセンターで行います。

11/20
(土)

「おうちで楽しむちょっと豪華な料理教室」

料理部

昨年度に引き続き「料理工房 創」の岡藤明美さんを講師に迎え、料理教室を開催しました。

今年度も新型コロナウイルスの感染防止のために検温、マスク着用、手指の消毒など充分に注意しながら料理を作り、今回は会場での飲食は取り止め、各自で持ち帰りました。

外食がためられる昨今、家庭で作るちょっと豪華な食事はコロナ禍での暮らしに潤いを与えてくれたことと思います。



女性クラブ
「やまももの会」

12/4
(土)

クリスマス会

喫茶部



「喫茶やまもも」は、新型コロナウイルスの感染防止のために今年度も開催を中止していますが、会員だけでも集まってはどうかと「夏カフェ」に続いて「クリスマス会」をコミセン集会所で開き、40人の参加がありました。

今回は、「音楽アンサンブルぶるーむ」の兒玉智子さんのフルート演奏もあり、優しい音色に癒されながら穏やかな時間を過ごすことができました。会員一人ひとりが日常を少しだけ忘れて、ゆったりとした気持ちになれたひとときでした。

コロナ禍で「やまももの会」の活動もまだコロナ前のようにできませんが、コロナ対応をきちんとし開催した今回の「クリスマス会」は久しぶりに参加された会員さんもあり、終始笑顔が見られました。コロナ禍であってもやはり、人と会って話すことの大切さを感じました。



10/24
(日)

荘原・出東一斉クリーン大作戦

出雲市環境保全連合会荘原支部

10月24日(日)、荘原地区の清掃活動を行いました。天候には恵まれたものの、ぐんと冷えた朝、小学生の子ども達をはじめ沢山の方に参加していただき、荘原のまちがきれいになりました。

皆さんに拾っていただいたごみを環境保全連合会荘原支部役員のメンバーで仕分けをし、まとめたのですが、集まったごみは何と軽トラ3台分！内容は、空き缶、空き瓶、吸殻、食べ物の包装紙などなど……ボイ捨てされたものが目立ちました。1人1人がマナーを守って、自分達の住む町をきれいにしていきたいものですね。



11/10
(水)

荘原コミセン大掃除

荘原コミセンの教室・サークルのみなさんに協力していただき、文化祭前の大掃除を行いました。普段はなかなか手が行き届かないところまで大変丁寧に掃除をしていただき、きれいになったコミセンで文化祭を開催することができました。

大掃除に参加していただきました教室・サークルのみなさん、ありがとうございました。



ありがとうございました！

年末年始の
利用について

荘原コミュニティセンター

12月29日(水)から1月3日(月)まで
一般業務、貸館業務はお休みします。

リサイクルステーション

1月1日(土)・2日(日)は
利用できません。

荘原コミュニティセンターよりお知らせ Information

「斐川相撲場整備促進協議会」が立ち上がりました

斐川相撲大会は、現在も岩野薬師祭において開催されています。しかし、土俵の腐み、四本柱・屋根の損傷が著しく、相撲場としては厳しい状況にあります。そこで、斐川相撲場(岩野薬師前)の整備を図り斐川地域の伝統行事の継承や子供たちの健全育成を図るため斐川地域の有志団体が立ち上げられました。改修協賛金募集中。



香典返し 金一封

ご寄付御礼

古川 敬浩様(東本町1自治会)
本田 廣恵様(川北上自治会)
渡部 誠様(灘北自治会)
錦織 洋子様(新橋自治会)

皆様からお寄せいただきましたお志は、荘原地区社会福祉事業に活用させていただきます。誠にありがとうございます。